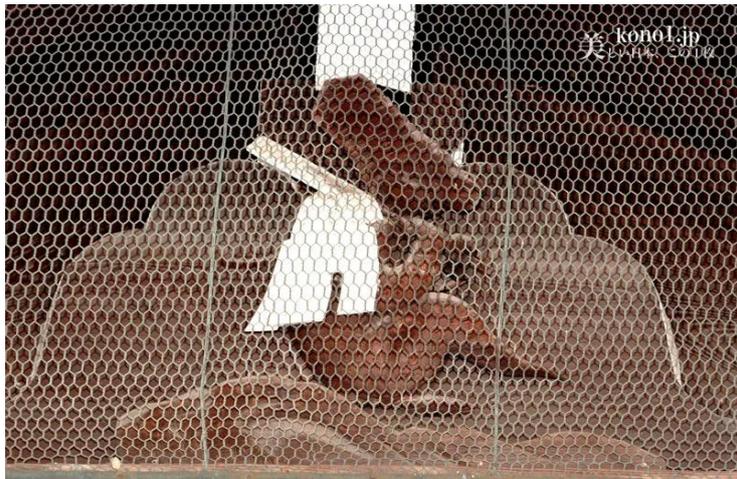


猿が辻

京都御所の東北角は御所の鬼門にあたる。ここには御幣を担いだ猿がこの鬼門を守っている。御所は鬼門を作らないように東北角の築地塀は切り取られ窪みが作られている。その窪みの奥をよく見ると御幣を担いだ木彫りの猿が見える。若いころ、木屋町界隈で飲んで酔い覚ましに歩いて帰るときは、御苑を寺町から今出川御門へと斜めに横切り、この木彫りの猿に挨拶をして帰るのが常であった。

一方、京都の北西、鬼門にあたる、修学院には赤山禅院がある。ここの山門には「皇城表鬼門」と豪快な筆致で描かれている。ここの拝殿の屋根には赤ら顔の陶製の猿がいる。この猿と京都御所の猿とは互いに向き合っているという。拝殿の屋根に檻が作られてその中に入っているの、檻に入っている理由を聞くと「この猿は赤ら顔から分かるように酒が好きで、夜になると御所の猿と二匹で祇園にのみに出かけるので、ああやるとじこめてあるのです。」とまじめな顔で答えられた。

さて、御所に話はもどるが、猿が辻は、尊王攘夷の嵐が吹き荒れた幕末、攘夷派の急先鋒であった姉小路公友が、夜、襲われ暗殺されたところである。おそらく、御所の猿は祇園に飲みに出かけて職務を怠っていたに違いない。私は通るたびに職務怠慢を猿に咎めている。



御所東北角「猿が辻」



赤山禅院「猿」

西村修会員